

## 富田地区むらづくり運動推進協議会

### 1. 基本データ

- (1) 地区名 富田地区  
(2) 地区人口 3, 220人  
(平成26年7月1日住民基本台帳)

- (3) 面積 21.7k㎡

#### (4) 地区の沿革

富田地区は、東は九頭竜川、西は真名川の二大河川に挟まれ、日本百名山に数えられる荒島岳のふもとから、東西約4km南北約7kmに細長く広がる純農村地帯。

#### (5) 実施主体

富田地区むらづくり運動推進協議会



### 2. 現状と課題

富田地区むらづくり運動推進協議会では、市民憲章を基調とし、富田地区の将来にわたって明るく豊かな地域の実現を図るため、地区住民が、自らの手による活気ある地域づくりの推進に努めている。

しかし、各集落においては、区長を中心として様々な地域づくりに関する活動が行われていることに対し、富田地区全体となると、「花いっぱい運動」等の環境美化作業や「とみた夏まつり」以外には特筆すべき地域づくりの活動も見られず、協議会もそれらの運営

に終始し、イベント終了後には活動が低調になっている。

この状況から脱却し、地域が一体となって取り組む、新たな地域づくりの方策を模索しているところである。



とみた夏まつり「みんなで踊ろう大野音頭」

### 3. 事業の内容

平成22年度から3年間の「越前おおの地域づくり交付金事業」では、富田地区農地環境保全協議会が造成したビオトープに、むらづくり運動推進協議会集落委員を中心とした地区住民の協働作業により休憩所と観察棟を整備し、地区住民が集う「安らぎと憩いの場」づくりを行った。



むらづくり環境部員による除草作業  
休憩所(中奥・H22) 観察棟(右・H23)

とみた夏まつりでは、ビオトープの風景を題材としたフォトコンテストを開催し、地区住民にビオトープを周知するとともに、地域づくりの拠点として活用することをPRした。

また、富田小学校児童の環境学習と自然体験活動の場として積極的に利用され、子どもたちの弾んだ声が聞こえるとともに楽しそうな笑顔が見られ、活気に満ちた場所となっている。



ピオトープ観察会

さらに、平成23年度には4集落へ、平成24年度には9集落へ、それぞれが抱える問題を住民自らが解決する協働作業に対して支援をする地域コミュニティー活動支援事業にも取り組んだ。



上野区イベントテーブル整備 (H23)



塚原区安全柵修繕 (H23)



七板区集落案内板改修 (H24)



新河原区集落センター敷地改修 (H24)



井ノ口区集落センター安全柵修繕 (H24)



こうした取り組みにより芽生えた、住民が自らの力で課題を解決しようとする動きを今後の「結の故郷づくり交付金事業」に継承するため、平成25年2月26日に地区区長会とむらづくり協議会の役員13名による検討会を開催した。

検討会では、人のつながりが生まれるような事業や継続性のある事業の実施を望む意見が出されたほか、むらづくりのビジョンやキーワードについて意見交換がなされ、今後の取り組みが具体的に示された。

その一つは、未実施集落でのコミュニティ活動への支援である。富田地区18集落のうち5集落での取り組みがされていないことから、公平性を保つことから支援事業を継続することにした。意向調査の結果、25年度には、2集落へ地域コミュニティ活動支援事業に取り組んだ。

二つめが、とみたのお宝発見・発信事業である。富田地区の名所や史(旧)跡、文化財、それらにまつわる言い伝えや民話、芸能、集落が自慢の話や場所などを「とみたのお宝」として掘り起しをし、住民が再認識するとともに後世に継承する。また、地区外へも情報発信することを目的として、平成25年度には、お宝情報の収集とそれを掲載したマップの作製に取り組んだ。



とみたのお宝マップ 解説面



新田区ゴミ集積ボックス更新 (H25)



新塚原区集落センター敷地改修 (H25)



とみたのお宝マップ 地図面



富田の史跡よもやま話講座  
(H25 結の故郷・人づくり講座)

25年度に実施した、とみたのお宝発見・発信事業の第1弾となる「とみたのお宝マップ」の取り組みは、住民でさえも忘れていたり、何気ないことであったものが、先達者や自らが育んだ、自慢のできる地区の「宝」であることへの気付きともなった。

ややもすれば、関心が薄れている、「宝」もあり、現地に出向いても、その名称や云われなどが全く解らないものも多くあることから、平成26年度には、とみたのお宝発見・発信事業の第2弾として「宝」の名称や言い伝えを記した案内看板の作製による環境整備に取り組むこととなった。

案内看板の作製にあたっては、「とみたのお宝マップ」と連動したものとし、記載の内容等を検討した。

その結果、案内看板には、その名称、所在、言い伝えなどを「マップ」の記載を基本とすることや、「マップ」に記している「お宝」番号を付すこと、また、「とみたのお宝マップ」を、大野市のホームページに掲載していることから、QRコードを記載することとし、案内看板の原案を作製した。

案内看板の作製は、その専門知識や技能を有する専門業者に依頼することとなったが、原案を基に、校正作業を行い、また、案内看板の設

置場所についても、検討のうえ取り組んだ。



廻り地蔵



「とみたのお宝マップ」と同様のフォントを使用したり、マップに記載している番号を表示した。



富嶋の  
六地蔵



QRコードを表示し、大野市ホームページに掲載している「とみたお宝マップ」が簡単に閲覧できるように取り組んだ。

#### 4. 事業の成果

とみたのお宝発見・発信事業

案内看板を作製したことにより、お宝の現地に出向いても、その名称や言い伝えが分かるようになったことで、より、地区住民の関心が高まった。

一部の地区では、「お宝」の再整備計画の話が持ち上がるなど、具体的な動きも見受けられるようになっている。

このように、身近にあるふるさとの宝に気づき、興味を持つような広がり期待するところである。

また、環境整備の充実等により、地区の魅力を発信することで誘客を図り、地区の賑わいを創出していく。

#### 5. 今後の展望

とみたのお宝発見・発信事業の第1弾、第2弾とした「とみたのお宝マップ」の作製、案内看板作製設置の取り組みは、地区住民が、自分の住んでいる地区にある「宝」に気づき、その関心を高めつつあるものになっている。

今後とも、「とみたのお宝発見・発信事業」を継続実施し、26年度で整備ができなかった「お宝」ポイントへの誘導看板や言い伝えを記した案内板の設置などによる、さらなる環境整備を行い、その魅力をさらに高めるとともに、住民を対象にした「宝」の解説講座や「お宝巡り」などを開催を通して、地区住民が地区の自慢と誇りを高める取り組みを展開していく。